

# 会員企業探訪

## インスペクションと ヘリテージマネージメントで 仕事の幅を広げる 設計事務所 ココーン設計舎 代表 坪倉 菜水



一見どこにでもありそうな和風の建物だが、実は明治時代に建てられた



インテリアの提案として、コンセントカバーの見本がずらり



持続化補助金を利用し購入した調査機器、住宅診断の効率もアップした



1Fには、まずは関心をもってもらいたい、とインテリアショップ「Ten-jin」としてオープン

### 経営理念

新築、改修、調査に限らず  
「安全な建物を増やす」「健全な建物を増やす」  
を理念として、  
地震に強く安全な建物の普及、  
啓発活動を行います。

来春、大田市で開催される「第71回全国植樹祭」において、天皇皇后両陛下をお迎えする「お野立所」のデザインコンペで優勝（ナガセミキ建築設計事務所との共同企業体）し話題となったココーン設計舎。代表の坪倉菜水さんは中学校卒業後、設計事務所勤務の実務経験を積み、平成19年に一級建築士となり、平成26年に独立開業した。努力の人である。

「山々の連なり、里山の風景、人々の暮らし」。そして非対称が織りなす自然の美。そこから生まれる文化を重なり合うフレームで表現し、パネルの構造には障子、組子といった日本の伝統美のエッセンスも取り入れて」と、まるで詩の一節を語るようにコンペ作品を紹介する。様々な思いを込めて形にしたという意志が伝わってくる。

「建築設計というのは通訳の仕事に似ています」と自らの仕事を評する坪倉さん。施主の声に耳を傾け、言葉の奥にあるものを読み取る。小さな言葉をひとつひとつ拾い集め、言われたこと以上の形にするのが設計士の仕事だと自負する。もちろん快適さや安全性を全うすることは当たり前で、その上で女性ならではの細やかな気づきやアイデアを活かした設計を心がけ、顧客には建築の面白さを楽しんでもらえるよう、打ち合わせには常に笑顔を、何でも話せる信頼を築くことを心がける。そして住宅や店舗の設計管理の他、ホー

あることはいまでもない。商工会議所の持続化補助金を利用し調査機器を増やし今後のニーズに対応していくという。

また事務所の一階部分を照明器具や雑貨小物を置いたインテリアショップとし、住宅の困り事など気軽に相談できるオープンスペースと位置づけ地域との結びつきを大切にする。

### 歴史的建物の物語を紡ぎたい

坪倉さんはヘリテージマネージャーの顔も持つ。歴史的な建造物の調査・活用を行うもので、主に明治期に建てられた築100年以上の建物が対象となる。調べると松江市内にはおよそ700件の該当物件が残っていることがわかり、そのうち市が登録歴史的建造物と認定したものが8件になる。

「建築士が町づくりのなかでできることは、建物の安全化や適法化へのコンサルティング、そして歴史的意義を伝えること。今やらないと古いものはどんどん壊されていく。その建物がどんな意味を持ち、どんな物語を持っていたのか知ることとても興味深い」という。

平成26年、雑賀の古い線香工場が解体されるといって仲間の建築士とともに調査に入った。関係者の話から以前は幼稚園だったと聞いていたが、調べてみるとどうも幼稚園らしくない。窓の造り、階段の大きさなど立

ムインスペクション（住宅診断）とヘリテージ（文化財）マネージメントという一般には聞きなれない仕事を得意とするのがココーン設計舎の特色だ。

### 一棟でも多くの安全な建物を

建築の仕事に携わって3年目に阪神淡路大震災が起きた。それまでは格好良いもの、デザイン的に優れた建物づくりを目指していたが、考えが大きく変わった。「安全なもの、人が死なない建物を作るのが設計の仕事ではないか。そして今住んでいる建物が安全かどうかわかるのが大事だ」と思った。坪倉さんは既存住宅状況調査技術者、ホームインスペクター（住宅診断士）、耐震診断士などの資格を取得し、調査診断業務を自らの使命とするようになった。では建物調査業務（インスペクション）とはどういった仕事なのか。「建物の健康診断、人間ドックのようなものです。建物がどんな状態で、どういう症状で、その原因が何なのか調べる仕事」という。主に流通過程にある建物について、基礎の状態、壁、床下、小屋裏、配管などを非破壊調査し、詳細なレポートにして依頼者に報告する。中古住宅の購入を考える人、家を建てたが問題を抱える人などからの問い合わせが多く、不動産業者や工務店からは通常のインスペクションに加え、耐震診断や違法建築かどうかの確認依頼もある。資産管理にも有用で

派な造りだ。これは何だろうと文献を当たったところ一枚の写真が見つかった。県庁近くにあった初代松江警察署庁舎である。そこに映っていた窓枠や外観が、壊される寸前の建物と一致した。日本でいちばん古い警察署として明治13年に建てられ、古くなって二代目に建て替えられる際、雑賀で私立幼稚園を営む女性に払い下げられ移築。昭和になって線香工場となったというストーリーも判明した。あわてて図面を引き、保存活動を行い、解体された部材は文化財となった。「町は資源・町は脈脈であると伝えていきたい」と思う転機になったという。

「二生プレーヤーでいたい」と将来の自分を語る。「人の痛みを自分の痛みとし、街中でじたばたし続けるプレーヤーに。だってそのほうが自分らしいし、楽しそう」

日本酒好き、廃墟好きを自認し、何よりも生きることとことん楽しむ。仕事はクールに、ハートは熱く。これが坪倉流なのだと感じた。

**ココーン設計舎**  
 〒690-0064 島根県松江市天神町84  
 TEL0852-67-1562 FAX0852-67-1563  
 [定休日] 日曜日  
 [Facebook] <https://www.facebook.com/cocoonarchi/>